

1、桂川の宮前橋の池と小湿地の保全

桂川の宮前橋の下の高水敷きに池（防火用水の池）と小湿地があります。私たちはそこで7種の絶滅危惧植物を見つけました。（1999年）

この植物を保全するために、この湿地環境を残すよう要望します。具体的な内容を記します。

1) この地域の絶滅危惧植物の調査を系統的におこなってほしい。その上でこの湿地環境を保護する区域として指定してほしい

2) 堤体のセットバック工事計画があるが、幸運にもこの湿地環境は残せる方向である。問題は橋のかけかえであるが、湿地環境を保全するよう配慮した計画を立ててほしい。

3) 一般に河原の植生は大水による攪乱で維持される。この湿地環境は高水敷きにあり、そこまで水をかぶることはほとんどない。従って湿地環境を維持するには高水敷きを削るか、あるいは水路により常に水を供給するかである。それができるまでの間は、適宜に重機による表土攪乱を実施してほしい。

2、大山崎町の「自然区」の植生復活

この自然区は長さ1.5 kmに及ぶ広大な高水敷きであるが水面より4 m高い。（その原因は流域下水道を埋めたとき、その土を積み上げたことである。）

従って乾燥し、外来植物が繁茂し、桂川の昔の植生の面影は全くない。それを復活させるためには積みあげた土を削り、大水による攪乱をもたらすか、小泉川から水路で水を引くかである。そうして植生を復活しなければ自然区という名に値しない。現代の土木技術ではいずれも可能なことである。検討してほしい。